



共同通信



2009年4月10日 152 (362号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901
☆ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 52

『西宮での2年間を振り返って』

2年前のちょうど今頃、はじめて
共同幼稚園の門をくぐった時の率直
な感想は、小さな園庭だなあ。繁華
街から近いし、環境はあまり良くない
かなあ・・・でした。

主人の東京から大阪への転勤の辞
令が出て、家と幼稚園探しを始めて
まず家は樋ノ池に決まったものの、
近くの園は待機園児（この言葉も始
めて聞きました！）がいっぱいで入
れない。。でももう年中になる娘を
遠くてもいいからどうにか入れたい
と思ってたどりついたのが、共同幼
稚園でした。この4月からまた東京
に戻ることになり、このような機会
を与えられましたので、西宮での2
年間を振り返ってみたいと思います。

娘が年中から通う予定だった鎌倉
の幼稚園は、閑静な住宅街の奥まっ
たところがあり、園庭も広く、天気
の良い日には園舎から富士山を望むこ
とができる“環境の良い”幼稚園でし
た。その幼稚園に決めたのはその環
境だけではなく、生き生きとした子
どもたち、元気な歌声などからだっ
たのですが、今思うのは、幼稚園のお
かれる環境とは与えられるものだけ
ではなく、それをどう生かすかで、ま
た地域との連携や、お互いがどう関
わるかが大事なのだと痛感していま
す。

この小さな園庭には驚くほど数多
くの木や植物が植えられていて、で
も、ただそこに植えられているので

はなく、夏の日差しを遮ってくれたり、季節を感じさせてくれたり、また実の成る木からは様々な恵みを受けていて、木もまた生かされていることを知りました。小さな園庭ゆえに人と人との距離も近く、お迎えのお母さん方とも早く親しく慣れたような気がします。また、お迎え以外にも月1回のわらべうたの会やおまつり、運動会その他園児と関わる機会も数多くあり、その都度お母さん、お父さん方の積極的に参加する姿勢を見て、また地域の方々も園と関わり支えてくださることを知り、環境とは物理的なものではなく、つくりあげていくものだということがよくわかりました。

また、駅や繁華街に近いという私にとって入園前はマイナスと感じていたこと（今考えると笑ってしまいますが）も、園ではそれを最大限に利用して、子どもたちは地域の人たちに温かく見守られ、本当にたくさんのお出かけをさせてもらいました。西宮は、自然にも恵まれ、尚且つ梅田や神戸といった街にも近く買い物にも便利で人込みや渋滞も少なく本当に暮らしやすいところです。関西（阪神間？）は川べりが整備されて住民の憩いの場となっていることに驚き、うらやましく思います。家から夙川が近かったので良く散歩にいきましたが、夏には仁川で魚採りをしたり、幼稚園でも津門川や夙川、芦屋川を

下って海まで歩きましたよね。そのお出かけでも行った都賀川での事故のニュースには他人事とは思えずショックを受けましたが、同時にいつも無事に連れて行って下さる先生方に頭の下がる思いがしました。

話は変わって・・・私は神奈川県、主人も東京の出身で初めての関西生活ということもあり、休日には家族で色々とお出かけを楽しみました。園を通して身近にたくさん自然があることを知り、甲山森林公園、六甲山、神戸のしあわせの村などはお弁当持参で良く行ったものです。また泊りがけでは淡路島、白浜、丹後半島、京都、伊勢神宮などへ足を伸ばしました。篠山へは秋に“味まつり”というのがあることを知り、焼き栗や猪汁、枝豆など篠山ならではの味にたくさん出会いました。食というと、引っ越してきたばかりの頃、梅田の阪神百貨店の地下で若い女性が一人でお好み焼きを食べている姿には軽いカルチャーショックを覚えたものです（昨年私もチャレンジ済み！）。関西の人のほうが、口が肥えているというか不味いものにはお金は払わないし、全体的に金銭感覚に優れているような気がします（自宅のある逗子などは、観光地ということもあって、ロケーションが良ければ味はそこそこでも高いお金を払って食べに来る人が大勢いるので！）。

他にも関西に来て驚いたことは、

例えばレジのおばちゃんや駅員さん、通りすがりの人でも親切というか、人に対する興味があるような気がします。東京の人は冷たいなどよく言われますが、確かにあえて見ないようにするところはあるかもしれません。また“ありがとう”が良く使われているのも新鮮でした。ニュアンスの違いもあり難しいのですが、関東では知人ではない人（例えば店員さんとか）には“すみません”を使うような気がするのです。このあたりも人が親しみやすいと思った要因かもしれません。

また、主人にとってはタクシー代を値切れるということが一番の驚きだったようです。値切るという感覚すらなかったのが新鮮でした。（ちなみに百貨店でも値切れる、というのは本当ですか？）などなど、数えあげたらキリがありませんが、どれもこれも私にとっては色々な違いが楽しく良い経験となりました。

しかし、何よりも深く心に刻まれたのは、ここ西宮は阪神大地震の被災地だということが実感出来たことです。2年前初めて園の事務所に入ったとき、ふと目に入ったのがカレンダーか何かの裏紙に手書きでかかれた“幼稚園の周りの被災状況”でした。確か園周辺の家々の被害状況が園児によって色分けされたもの（亡くなった方がいる家は赤など）だったと記憶していますが、ぼろぼ

ろになっても貼られているそれを見たときは頭を殴られたようなショックを覚え、鳥肌が立ちました。地震の当時、私は就職して2年目、大阪に本社がある会社だったので社員の被災状況などが報告されたり、募金をしたりしたことを覚えています。幸いにも皆無事だったこともあり、TVの中での出来事というか実感が湧かなかったような気がします。実際、西宮と大阪ぐらいの距離でも“温度差”があったと聞きます。しかし、あのぼろぼろの地図を見て園の想いの一端に触れ、幼稚園や教会につながる命も失われたという話を聞いたり、園のお母さんから当時の話を聞いたり、また高松公園での追悼コンサートに参加するにつけ、ほんのわずかですが当時を想うことが出来て良かったと思っています。

最後に、あと数日で西宮を去るにつけ本当に寂しい想いで一杯なのですが、それ以上に今はこの共同幼稚園に出会えたことの幸運を思い、園長先生、順子先生をはじめ先生方、また園を支えてくださっている地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。娘が卒園式前によく歌っていた♪さよならなんて言わなくてもいいよね。また会えるね～♪の気持ちで前向きに、また新たな生活を始めたいと思っています。お世話になった皆さん、本当にありがとう！そしてまた会いましょう！

生きるために切ない努力を続ける、特別だが凡庸な主人公たちの姿は、武器をもって英雄的に闘ったり、偉大な芸術作品を残すことなどできなかった者たち、ただ祈ることしかできなかった者たちもまた、彼らへのやりかたで必死に運命に抗い、傍目から見れば愚かしい、現実を変える力などないもない、ささやかな何かに希望を託し、全身全霊で、人間らしく生きるための痛切な闘い—ジハード—を闘っていることを教えてくれる。

(岡 真理)

イエスは、エルサレムに入場するにあたって、乗り物としてろばを選びます。それまでの行程のほとんどが“徒歩”だったらしいことから、それなりの意図があったこと、それがゼカリヤ書9章9節の「シオンの娘よ、大いに喜べ。エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、あなたの王はあなたの所に来る。彼は義なるものであって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。」に基づいていることは明らかです。同じイエスのエルサレム入場のことを、そんなゼカリヤ書の“預言”の成就として描いているのはヨハネ福音書です。『「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王が、ろばの子に乗っておいでになる』と書いてあるとおりである」(12章15節)。“と書いてある”については、それがゼカリヤ書の “シオンの娘よ、大いに喜べ”ではなく“シオンの娘よ、恐れるな”が“恐れるな”になってしまったのは、ヨハネ福音書が書かれた時代の、この人たちが追い詰められてい

た状況が、そこに反映された結果かもしれない。

ゼカリヤ書はといえば、もちろん言われている“王”が、誰と特定される形で存在していた訳ではありません。しかし、あるべき“王”について明確な理解は持っていたと考えられます。その王は、強大な軍事力、栄華を誇り、戦車に乗ったりする王ではなく“ろばの子に乗る”王なのです。“柔和であって”“ろばに乗る”は、自ら“義なる者”であることが求められています。更にゼカリヤ書は続けます。「わたしはエフライムから戦車を断ち、エルサレムから軍馬を断つ。また、いくさ弓も断たれる。彼は国々の民に平和を告げ、その政治は海から海に及び、大川から地の果てにまで及ぶ」(10節)。“エルサレムから軍馬を断つ”意思表示として、イエスのエルサレム入場は、徒歩でもなく“ろばの子”が選ばれることになりました。そこには、ゼカリヤ書の“王”として求められる資質や課題も込めら

れていました。

ということですから、エルサレム入場にあたって“ろばの子”を選んだのは、挑戦ないしはあてつけの意味がなくはありません。どうであれ、そこをローマが支配しえたのは、圧倒的な暴力です。より具体的には戦車と軍馬といくさ弓の力で支配していました。そして、律法学者などのユダヤ教宗教勢力は、ローマの圧倒的な暴力を受け入れると同時に、いくばくかはその力を背景にして、宗教勢力としての力を誇示していました。たてまえとしての義を求めるとしても、自らの義を深くえぐるということではありませんでした。

そんな状況の中で、エルサレムに入場するイエスが選んだ乗りものが、ろばの子だったのです。そんなイエスは「多くの人々が自分の上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた」などのことをして迎えられます（マルコによる福音書11章8節）。それが、本当の意味での歓迎だったのか、そうして“王”であるイエスをあざ笑ってのことであったのかは解りません。ただ、“多くの人々”の場合も、イエスの弟子たちの場合も、そのことの意味や、イエスを待ち受けていることについて、そんなに真剣に、深刻に考えていた訳ではありません。たとえばエルサレム神殿のことで「弟子の一人が言った『先生、ごらん

なさい。なんとという見事な石、なんとという立派な建物でしょう』。イエスは言われた、『あなたは、これらの大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずさないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう』」（マルコによる福音書13章1、2節）。巨大な神殿を前にした時、たとえばイエスの弟子たちはその事実の前に圧倒されてしまいます。思想など吹っ飛んでしまうのです。しかし、そんな神殿のエルサレム入場に“ろばの子”を選んだイエスは、それに圧倒されて考えを変えてしまうということはありません。“ろばの子”に乗って、神殿の巨大さをものとしなかったのですから、“この大きな建物をながめているのか。その石一つでもくずれないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう”などと、平気で言ってしまいます。

と、平気で言ってしまう理解の根底にあるのは、他者に義を求めるのではなく、自らの義をえぐる人であるからです。

（菅澤 邦明）

～今月のいのり～

神さま、今年もイースターが巡ってきました。この場において愛する方々と共にこの日を迎えられることを感謝いたします。

1年前のこの日のことを思い起こします。その日から今までの道のりの一つ一つの出来事が私を成長させてくれました。喜びの感情も、悲しみの感情も、気持ちが揺れることも、みな生きている所以です。笑顔も涙も憤りも、みな私の宝です。

神さま、どうぞ人が感情を露わにすることをお許してください。私たちは誰かにその感情を向けているのです。

神さま、どうぞ自分の弱さを露わにすることをお許してください。人として生きたイエスの最後の言葉を思い起こし、神さまに向けてこの祈りを吐き出しています。

共に礼拝に集えない方々を覚えて祈ります。どうかそれぞれの場において、あなたが祝してくださいますように。

この一言の祈り、尊き主イエス・キリストの御名によって御前にお捧げ致します。 アーメン

『旅立ちの空～桜色～♪』

タイトルはある歌手の『新生活』という歌の歌詞。それに続くのが『新しい風吹き吹かれ～まだ見ぬ仲間思いはせ～別れもあれば出会いある～♪』3月の後半になり、4月が近づく時期になると思い出すのがこの一曲なんです。

4月、新生活が始まる・・・あまり変化のない人もいるかもしれませんが年度の初めということでリフレッシュして、気合いを入れなおして～と決してこれまでとは全く同じ気持ちではないはず。そんな人もいれば、全く環境が変わり本当の新生活が始まるという人も多いこの時期。

3月16日、共同幼稚園の年長の子ども達、70人の新生活への“はじめのいっば”を見送りました。今までとは全く違う、幼稚園という所から小学校という所へ・・・ランドセルを買った、机を買った、入学式に着ていく服を買ったなどと、これから始まる新生活に期待を膨らませていた子どもたち。言葉からだけではなく、その表情からも思いが溢れていました。一方、上に小学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんがいる子どもは「しょうがっこういややなあ～ずっとようちえんがいいなあ～。」こんな風に思う子どももいるんですね～。その言葉を聞いて、「それなら、もう一度年長してもいいよ～！」すると、「それは

やめとくわ～！」なんです。ずっと幼稚園がいいと言いつつ、やはり小学生になることへの喜びもしっかりと感じているんですね。でもそんな子どもの言葉がとっても嬉しかったです。もう二度と戻ることのできない幼稚園時代・・・6歳になった子どもがもう一度3歳に戻る・・・無理ですよ～戻れるものなら私も子ども時代、幼稚園時代に戻りたい！そして、共同幼稚園に入りたい！！まあ無理なものは無理・・・でもここ、共同幼稚園で子どもと過ごす日々、どんな時でもそこには子どもたちがいて、共に～を実に多く体験させてもらっています。自分の子ども時代を取り戻す、いえ、もう一度子ども時代の時間を過ごさせてもらっているんです。決して戻ることのできない子ども時代、そんな“今”を生きる子ども達と過ごせる毎日に感謝しています。

春休みの間、淡路島にある安乎のキャンプ場へ行ってきました。参加資格は教会学校の新5年以上ということで新5年生から新大学生までの参加がありました。子ども22人、大人14人の参加でした。これまで私が参加した中でもこんなに多い参加は初めてだったので、大人数で過ごす一泊二日の淡路でのワークキャンプがどのようなのか想像のつかないまま出発です。車とバスに分か

れての出発。私はバスで行ったのですがバスを降りて歩いていると一面に広がる菜の花を見つけ、バスに乗ってきたからこそ出会えた風景に満足～それから静かな淡路の道を歩き、一足早く着いた車隊がお迎えにきてくれて、全員が無事にキャンプ場にたどり着いた訳です。久々のキャンプ場、私は懐かしいな～と昨年度卒園していった子どもたちと夏に淡路にやって来て、このキャンプ場でお箸作りをしたことを思い出しました。卒園した子どもたち、それぞれがきっと様々な思いを抱いたことでしょう。色んなことを思いながら少し遅れての腹ごしらえ。それからキャンプ場から歩いてすぐにある海へ～みんなでワイワイ言いながら海岸を歩きました。ここへ来た目的は・・・食材集め！ワカメです。それにメカブまで。立派なものがたくさん取れて晩ご飯の食材をゲット！一度キャンプ場へ戻り、再び食材探しに～！今度は・・・幼稚園の畑や西宮でも見ることでできる生えているアレです。のびるにつくし、よもぎ！見つけると飛びつくようにして次々に子どもたちが取ってくれました。そのお陰でまた晩ご飯の食材ゲット！！そんな食材達が美味しく変身しました。メカブは湯がいて細かくきざんでお酢と醤油で味付けをし、出来上がり。のびる、つくし、よもぎは天ぷらに～もちろんメカブも天ぷらに～これが

また美味しいんです！淡路と言えば玉ねぎですよ～その玉ねぎも天ぷらとして頂きました。ここで食べるよもぎの天ぷら、これが大好きでとても楽しみにしていたんです。ここでしか食べる機会がないよもぎの天ぷらに大満足の自分でした。

今年のワークキャンプの日程が3月31日～4月1日でした。教会では毎月1日は早天祈祷会。知ってはいましたが参加するのは初めて。しかもキャンプ場で、全員で～とのことでした。1日の朝6時半から始まりました。昨晚、各学年から一人ずつお祈りをしてもらおうというお知らせがあり、子どもたちからは、え～！！という驚きの声。そうして当日の朝を迎えました。5年生から順番にお祈りをしてもらったのですが、まあビックリ！詰まることもなくしっかりと声でお祈りをしていました。内容はともかく、みんなの前で祈ることなんてしたことのない子どもたち、ただただ感心しました。そんな中、4月から大学生になる男の子が2名参加していたのですが、2人共祈ることとなりました。もちろん共同幼稚園を卒園し、行事の際にちょくちょく顔を出し3月には頻繁に顔を出していた2人です。初めに祈った子は夢に向っての情熱が溢れていて、その決意のようなものをみんなの前で言い、決意したように感じました。そしてもう一人は西宮を

離れ、地方の大学に行くことが決まっている子で、出会いは一期一会で～という祈りをしたのです。この2人の祈りから熱い思いが伝わってきました。この2人以外にここ共同幼稚園を卒園し、4月から大学生になる子たちが数人遊びに来ていました。幼稚園時代からの仲・・・今でも仲がよく今もこうして集まって～という仲間がいる、ものすごいことだと思います。というか、とってもうらやましい！幼稚園時代の友達！？と大きくなって、会って～それも自分たちが過ごした共同幼稚園で再会できる、なんてステキなことなんでしょう～と。そんな彼ら、彼女らとは全く面識ありませんでしたが顔をちょくちょく合わせるうちに自然と話ができ、向こうも何の躊躇もなく話してくれて、素直！！そんな交流をととても嬉しく思い、共同でだからこそなのかなとも強く感じました。卒園して、再び戻ってこれる・・・もちろん他の幼稚園でも訪ねるということがあるとは思いますが、しかし、ここ共同は一味も二味も違うんです。いつ訪ねても、おお～！！と驚き、よく来たね～！と迎えて下さる園長先生、順子先生、そして先生たちがいるから、来て良かったって思える雰囲気漂っているんだと思います。卒園しても、幼稚園に訪れるチャンスがたくさんあるということ！教会学校に星まつり、共同まつり、運動会な

ど。そんな、いつでも帰ってくるのできる共同幼稚園で過ごせていることに本当に感謝しています。

子どもを送り出し、別れ・・・でもまた会えるから、またね！と声をかけました。そして幼稚園ではまた新たな仲間を迎える4月、出会い・・・色々な出会いと別れがありますが、それぞれ違う道に進んでも、見上げればみんなと同じ空を見つめている、そんな自分の体験で、空を見上げて繋がっているんだ！と感じたことを思い出しました。これからもそんな空を見上げて、みんなのことを思い出したいなと思います。そして、これかれのみんなの歩みがよいものとなりますように・・・☆

(水田 有希)

すずや便り

とても暖かな朝。家族を送り出した後、アレックスと一緒にベランダでひなたぼっこするにはもってこいの陽気です。鉢植えたちも気持ちがよさそうです。

今はオキザリスと花菖が咲いています。どちらも長男が入学したころ、帰り道に神戸女学院の坂で摘んできたものです。あの頃はランドセルが大きく見えました。食べた後の種を植えたアボガドは70cm程に成長、新芽が出てきました。グレープフルーツは4年目、今年もアゲハの幼虫をたくさん育てられそうです。この辺りは元手「0」チーム。初期費用No.1は、なんとといってもバラ。1月の剪定&植替えもぼつちりで、元気な新芽が出ています。一昨年、苗を購入してみたものの一向に花は咲かず、「枯れちゃったのかな～」と思いながら水をあげていました。1年たったある日、小さな新芽がぼつぼつ出てきたと思ったらあっという間に成長し、花がたくさん咲いたのが5月の連休前。香りもすばらしくてうっとり。枯れ木にしか見えない休眠中の枝が春の訪れと共に芽吹いていく様子が感動的でした。すっかり薔薇にハマリ、苗を買い増し育て方も調べ、お手入れをして迎えた今年の春です。剪定で落とした枝をそのまま空いている鉢にさしてみたら立派に根付いたの

には驚きました。とりあえず水をやっているだけだったのですが、植替え後は細い根を出すために肥料は与えないほうがいいそうで。結果オーライです。小さい芽からどんどん葉が茂り、ぐ～んと伸びてその先に…去年の感動を思い出して、わくわくしています。5月が楽しみ！ピンク、白、黄色にオレンジ（じごくのそうべえの鬼みたい？）の花が咲き揃う予定です。千葉からのお付き合ひ、10年選手のジャスミンも近年まれに見る蕾の数。去年の剪定の成果かと、自画自賛です。植物は場所を変えないほうが良いと聞きますが、引っ越してもこんな姿を見せてくれるなんて嬉しい限りです。焦らなくても新芽の季節は訪れるのですね。ベランダの植木から元氣をもらって深呼吸しました。肩の力を抜いて、春の訪れを待つとしましょう。

（富家 香麻里）

みかん便り

みかん便りです☆

愛媛はようやく暖かくなってきました。関西の気温は過ごしやすくなってきましたか？

今年から、幼稚園から教会学校を通して親しくなった仲良しの幼馴染たちが大学生になりました。初めて喋ったのは小学3年生の頃だったと思います。何だかんだ言ってもう初めて会ってから12年がたったやなあって思うと、早かったような長かったような曖昧な気分です。お互いしっかり身体も中身も成長してるのに、実際会うといつも初めて会った時の様にワイワイ騒いでいます。地元の友達や新しくできた愛媛の友達と遊ぶのもめっちゃ楽しいけど、やっぱりこのメンツで集まって喋るときは別次元の楽しさです(笑) 将来もっと大人になって家庭を持って仕事で大変になった時にも、普通に集まってお酒を飲んでガヤガヤしてるんやなあって思います。

そんな幼馴染たちは高知に行ったり、東京に行ったり、大阪まで3時間近くかけて通ったり、自衛隊で色んなところを回ったり。。そんな奴らばっかりやけど、不思議といつでも会える気がします。地元の中高の友達はこんなバラバラになったら永久にバイバイやのに(笑) 12年の絆ってすごいなあ。。自分が小学校入った

ときに京都に移り住んだ身分なんで、基本友達に距離は関係ないと思ってるんで♪最近俺抜きでみんなで遊んでるらしいから若干疎外感感じるけど(泣) ってなわけでこれ読んでる幼馴染がいたら、GW(5か6日)空けといてな！飯でもいこや！

で、最近の近況はというと、6月に行われる「札幌YOSAKOIソーラン祭り」への関西京都今村組札幌遠征練習が始まりました。これから地獄の2ヶ月猛練習が始まります。めっちゃしんどくてめっちゃ辛いけど、過去3年、確実にこの時間を通して自分を成長させることができている。今村組に入って今年で4年目。もう新人じゃなくて中堅になる時代がこようとしています。これからもいっぱい入ってくる後輩のために何を伝えてやることができるのか、そしてどのようにお互いを成長させていくことができるのか。これを考えていく時期になったようです。今年は何を掴む事ができるのかはまだわかりません。去年はホンマに人として大事なことを教わったんで、今年ももっと色んな事を組に教わりたいです。6月の祭りが終わってからのみかん便りをお楽しみに☆5月は今村組練習の中間情報をお届けします(笑)

ちなみに大学の選択コースは法律

コースを選びました。

これから3年間、頑張って法律を学びます。それでは良い春を♪

(河村 高志)

グアテマラ便り

今回は、こちらの郷土料理のお話です。

グアテマラはマヤ系民族の他に、カリブ海側にはアフリカ系（黒人系）のガリフナ民族の人たちもいます。

各地、それぞれのお料理がありますが、今日は「JOCON」ホコン

というものを紹介します。グアテマラは畜産が盛んで、牛肉も多いのですが、おいしいのは鶏肉です。ホコンもメインは鶏肉。そして、青いトマト、食用ほおずきのミルトマテを使います。

鶏肉をしばらく煮て、取ったスープと生の青いトマト、湯がいたミルトマテ、さらにネギの青いところ、チレ・ピミエント（大型ピーマン）、ニンニク、そしてコリアンダー〔香草）をミキサーにかけます。その緑色のジュースのようなものをこし、鶏肉を入れ、さらにしばらく煮ます。タマネギ、ピーマンを炒めたところに米を入れて炊いたものが付け

やグアテマラの主食、トルティーヤと一緒にいただきます。

トルティーヤはとうもろこしの粉を練って、丸めて広げて、大きな鉄板で焼いたものです。街角で、「パタパタ」と両手で広げている音が聞こえます。グアテマラ人たちは、トルティーヤがない日本には、絶対行けないと言い切るほどにトルティーヤが大好き。まったく、日本人の米好きと同じですね。

ここでは、鶏肉も部位ごとではなく、1羽か、買う時に切ってもらいます。私はたいてい、半分に「割って」もらいます。食用ほおずき、ミルトマテはこの料理には欠かせません。ペピアン（これは赤いトマトを使うシチューのような煮込み）にも入れます。酸味と風味付けのようです。チレ（ピーマン、唐辛子などのこと）にも種類がたくさんあり、（辛味のあるものからないものまで）料理ごとに使い分けています。チレ・レジェーノは、チレで肉やタマ

ネギなどを包み込んで、卵をつけて焼いたもので、肉詰めみたいです。私の好物です。

先述のガリフナの領土料理は海鮮のココナツ風味スープ。独特の風味でこれもおいしいですよ。思い返すと、煮込み物やスープが多いなあ。

ここでたくさん採れるアボカドは、野菜と鶏肉たっぷりのコンソメスープにオプション（別料金です）で入れるのです。温かいアボカドって、イメージしにくいかもしれませんが、クリーミーな感じでおすすめてす。

（横山 佳代子）

大切な贈り物・津門川 79

“子どもたちと津門川”

“きょうかわで、さかながぴよんぴよんはねていたよ！もしかしたらさかなのぴよんぴよんたいかいがやってるのかな？”

「おはよう」よりもなによりも、朝からそのことをまず一番に！と大興奮で教えてくれる子どもたち。その津門川で、あおさぎが魚を食べる瞬間を見たり、かもが一斉に飛び立っていったり、「いまのみた？」「みたみた～！！」もうそれだけで心がワクワク弾みます。春の訪れを教えてくれるタンポポに、心を暖かくしてもらったこともありました。いろいろな生き物が現れたり、季節をいっぱいに感じる事ができたり。津門川は生きていて、毎日私たちに驚きや発見！をくれていたのです。

津門川は、子どもたちのはじめの一步となる大事な川です。10年前のおたよりも、そのことが書かれていました。

“はじめての散歩に出かけることになりました。帽子をかぶり、お友達と手をつないで準備完了。まずは幼稚園のすぐ目の前を流れている津門川をみんなで覗いてみました。川の周辺には花がたくさん咲いています。・・・川の中には大きな鯉が泳いでいます。それを見ただいちゃんは、「あのさかな（ち

いさいさかな）はおかあさんをさがしてるんだよ」とみんなに教えていました。・・・”

その津門川に年長さんのこいのぼりが泳ぐようになり、ぼっぼさんのはじめの一步はこいのぼりを見ること！！になったのです。そんなはじめの一步を見守られ、子どもたちは少しずつその距離をのぼしていきました。「いってらっしゃい」と子どもたちを見送り、時々再会することもあったりして！そして、かならず「おかえりなさい」と迎えてくれた津門川です。どんなに遠くへ行ったときでも、津門川が見えてくると、「あ～やっとなしのみやにかえってきたね」なんて子どもたちを安心させてくれる存在でもありました。

いつも子どもたちとの毎日を見守り、より豊かにしてくれたこの津門川は私にとっても大切な川となりました。これからの私の毎日もどこかでここにつながっていることを願うとともに、ここでの子どもたちのこれからの毎日が守られることを願っています。

（上田 華子）

教会学校から

《3月の活動報告》

◇3月1日（日）

手作り肉まんを食べる

◇3月8日（日）

桂米八さんの曲独楽・南京玉すだれ！

落語家の桂米八さんをおよびして、幼稚園の園舎で曲独楽・南京たますだれを見せてもらいました。幼稚園の子どもも、卒園した小学生たちもコマ回しが大好きです。びっくりするような技にみんなで驚き、楽しい時間を過ごしました。

◇3月15日（日）

幼稚園の子どもたちと一緒にわらべうたで遊ぶ

◇3月22日（日）

教会学校・入学式

◇3月29日（日）

高松公園で大なわ大会

《4月の活動報告》

◇4月5日（日）

特製・ソーセージお好み焼きを食べる

◇4月12日（日）

イースター・卵さがし

◇4月19日（日）

ちょうちょ作り

◇4月26日（日）

ビデオ鑑賞会

2009年4月 あんなこと こんなこと…

まいのなんでも案内

新年度ですね。はじめましての方もそうでない方もこんにちは。舞です。この春から「大学生」という肩書きがなくなり、4年間住んだ京都、そして22年間住んだ関西を離れて、東京でOL生活を始めました。鴨川と夙川の桜が見られないのは本当に残念ですが、新居もなかなか桜の名所に近いので、毎朝の通勤中に愛でています。社会人になったって言っても、まだ仕事らしい仕事もしてないし、1人暮らしも変わらないし、あんまり実感ないな・・・なんてことをのたまっている同級生もいるわけですが、わたくしの場合、これまで余りに自堕落な生活をしていたため、実感はしっかりと得ています。だって朝起きてご飯食べて電車乗って会社行って、夕方また電車で帰ってきてご飯作って食べて・・・。まず、一日三食という生活が久しぶりです。これまでは、朝と言うよりは昼に近い時間に起きて、朝ご飯は抜きか、ランチを食べて昼を抜いて、大学やバイトに行って、帰るのは大体夜。ご飯は作ったり外食だったり。で、夜更かししてまた次の日も遅く起きて・・・と、いう、不健康極まりない生活だったもので。基本的に夜型なんですよ。23時以降に色々やる気になる、という。ところが今月からはそんな

夜更かししようものなら、確実に睡眠時間が足りなくなる（ロングスリーパーなので、1日に8時間以上寝たいんです）。朝ご飯を抜こうものなら、確実にお腹が鳴る（実は入社日、会社案内の最中にエレベーターの中で鳴りました）。そんなことでは生きていけない！

と、これを書いているのが深夜1時半だということは現実として捉えたくないのですが（明日8時出社だよ・・・とか書くとOLぼくないですか？ふふふ。）、今日は、昔に立ち返って、神戸の素敵な本屋さんを紹介したいと思います。昔、というのは、この連載がかれこれ8年前は、「児童文学案内」だったからです。て、8年前！？ちょっと今自分でびっくりしたんですけれども。間、3年休載してますけど、よく書いてますね。これは是非10周年まで続けたいところですね。ちなみに、児童文学案内の頃のバックナンバーはネット上で読めます。今読み返すと拙くて幼くて恥ずかしいものもありますが、興味のある方や奇特な方は「マイの児童文学案内」で検索してみてください。で、素敵な本屋さんなのですが、何が素敵って、児童書売り場が、です。前から存在は知っていたのですが、そんなに素敵だと知ったのは仕

事がらみでです。あ、わたくし、晴れて児童書を扱うのが本職になりました、この連載はそういう仕事の視点は抜きにしたいなと思っているのですが、でも、やっぱり良いものは良いので紹介します。

本屋さんのお名前は「海文堂書店」。神戸三宮、というよりは元町ですね。元町通り沿い、元町3番街の南側にあります。ぱっと見、普通の本屋さん。昔ながらの本屋さん。別に児童書専門店というわけでもなく、一般書を主に扱っています。が、児童書売り場に行くと、そこの品揃えには本当に驚かされます。もう、皆様に是非行っていただきたい。最近の本屋さんって、大型のものやチェーン店が増えていて、大きいところにはひたすら何でもあるし、売り場のスペースが限られているところは、話題の本や売れ筋の本しか置いてなくて、どこも一緒……。児童書専門店に行けば欲しいものはあるけど、私みたいな本なら割と何でも雑食、という人間からすると、わざわざ児童書専門店に行くっていうのは構えすぎて何だかなあ、という気もあり。そんな中、この海文堂書店は、他の売り場も充実しているにも関わらず、児童書売り場が、私が読んで育った、もしくは育ちたかったものだけで構成されているのです。勿論売り場の空気も、適度に本屋さん、といった感じで私好み。大型書店も勿論好きなんで

すけど、ああいった、大き目の小型書店、というのが一番「本屋」として落ち着く気がします。知るのが遅くてそんなに回数は行っていないけれど、また機会があれば寄りたいと思います。ていうか行けるものなら来週末にでも行きたいですけど。神戸市立博物館とセットで行って、帰りに本町ケーキか芦屋ダニエルでお茶して……。て、帰省した暁にはやってやろうと思います。それでは、また一年、よろしくお祈りします！

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

西宮公同幼稚園の庭の桜が咲き始めたのは、確か3月25日くらいでした。この調子だと3月中に満開だと話していた桜は、4月10日になって、散り始めてはいますがまだ咲いています。風が吹くと“花ふぶき”になる桜の下で、子どもたちはできたての“大学イモ”をたっぷり味わいました。徳島のSさんから届いていた“鳴門きんとき”、Yさんのお宅にイースター記念礼拝の案内を届けに行っていた、種子島の“紅イモ”が、吉山隆生さんの手で、大学イモになりました。料理のことで、たっぷり味わってもらうことを身上にしている吉山さんは、更に5キロの“鳴門きんとき”を用意しましたから、使ったイモは15～16キロになります。大学イモは、ちょっとの間で、アメの部分が固まり、ほおぼると歯にくっついてしまいます。ですから、口をゆがめるようにして食べている子どもたち、そして花ふぶきが美しい、大学イモのパーティでした。

(K)

幼稚園が春休みの間、園庭は少し賑やかでした。卒園していった子どもたちの同窓会が代わる代わる行われていたのです。私が初めて受けもった子どもたちがこの春、高校生になりました。4歳児だったあの子たちが、今はもうそんなに大きくなっているのです。自分はそんなに変わってつもりはなくても、時の流れの大きさに嬉しかったり、しみじみしたりです。久しぶりに再会した子どもたち、はじめは照れていたりもしたけれど、いつのまにかあの頃に戻ったように園庭を走りまわっていました。いくつになってもこうして帰ってこれる場所がある、一緒に笑い合える仲間がいる、なんて幸せなことなのでしょう。そんな子どもたちと過ごしたあの頃が懐かしく、私も一緒に過ごせた時間に、今こうしてみんなの成長を感じれることに、改めて感謝しています。次に会えるのはいつかな。またここ、公同幼稚園で集まれるといいな。

春はいろんな出会いがあります。新しい出会いも、懐かしい再会も。いろんな人と笑顔をあわせるそんな時間を幸せに感じれる毎日でありますように。みなさんはどんな春をお過ごしですか？

(I)

春休み最後の2日間、京都へ行きました。鴨川沿いに咲く、桜をのんびり眺めたり、足をすりむきながら木登りをしたり～…。たくさん春を感じ

た2日間でした。京都御所で四つ葉のクローバー探し大会もして、初めて真剣に四つ葉を探しました。そして、見事発見☆いいことがありますように。感です♪新年度、豊かな毎日が送れますように。

(Y)

ちょっとしたきっかけがあり、以前レッスンして下さっていたピアノの先生にお会いすることができました。30分しか時間がなかったのですがお互い嬉しくて！ついつい喋り込んでしまい気付けば1時間以上も経っていました。当時のように先生の隣に座っての懐かしい時間でした。そんな中で私のちょっとした願いが叶い嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです♪

私をピアノ好きにさせてくれたのはこの先生と出会えたから。この出会いに改めて感謝をしたひとときでした。

(N)

春の淡路島のキャンプに参加。キャンプには弱く、夏以外なんて、それで春のキャンプは初めてのように思う。しかし、いやあ面白かったの何の。また行きたい。まずは往路の車中、適当な突っ込みで実に話が盛り上がる5年生以上の面々。飽きずに運転し、あつと言う間に平安荘に到着した。子どもたちにはずっと圧倒されっぱなしだった。誰も大きな声で指示しなくても適宜判断して行動していく。今は自由時間と思うと自然発生で野球などが始まる。いつの間にか一斉に「竹でのマイ箸づくり」に取り組んでいる。現地の方々の訪問があったが、中のひとりが「人種が違う」という表現をされた。何と言う表現かと思うが、それくらいみんなが「生き生きしている」ということらしい。確かに！。で、思いっきり楽しませてもらった。この春の間、青年たちの集まりに、このキャンプにと特別参加させてもらった孫は、幸せなことに「姫」扱い。楽しかっただろうけれど、今また日常に戻って保育園生活。時々「きょうこうどうようちえんいける？」とその時を楽しみにしながら。

(J)